



# 臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

## 世界の医療と日本

[当法人評議員]

多摩センタークリニックみらい

藤井 仁美 [医師]

リスボンでの欧州糖尿病学会に参加してきた。日本では見ない新しいデバイスや薬剤に関して見聞を広めるのは海外学会に参加する楽しみの一つである。欧米ではスマートフォンやスマートウォッチでデータを確認、操作も手元ででき、クラウドに飛ばして、医療従事者もその場で意見交換できますというもの。さらにCGM(持続的グルコースモニタリング)、インスリンポンプやグルコースセンサーを小型化したり、ディスプレイにしたり、多くの患者さんの手に、なるべく廉価に、ついでに環境への負担を減らすなどのコンセプトを大々的にプレゼンしている。一方既存の持続グルコース測定器とポンプの間を自らプログラムしてクローズドループ(つまり、測った血糖をもとに次なるインスリン注入量を計算し、実際に注入するというもの。AI時代だからさらにディープラーニングして、その人の血糖上昇曲線のクセを掴んだり、食べ物の嗜好性も捉えられるかも、と夢は膨らむ)を作ってしまう人たちもいるというからすごい。そのプログラムをタダ同然で配って、書かれたプログラムをコピーしてインストールすれば(というのが私のイメージ)、インディーズ版クローズドループの出来上がり、というのだからなんて人たちだ。そのお手製機器をFDA(日本の厚生省にあたる)に認めさせようと運動もしているらしい。一方日本はといえば、武器同様どこかの国の「型落ち」機器を享受し、しかも腹立たしいのは、全体に底流する、患者さんの手元ではデータ出力できないなど「知らしむべからず寄りしむべし」という姿勢だ。

名だたる学術誌も学会も、全欧州、あるいは米国で行われる企業による大規模研究を大きく取り上げている。既存薬と比しての「非劣勢」や実臨床ではありえなさそうな(あるいは欧米ではありえるのか?)重症患者ばかりを集めた群で、超短期で、心血管疾患を増やさない事を証明しようとしている。その莫大な費用は結局どこの国でも医療費として、患者と国民が負うことになる。これぞEBM (evidence-based medicine)か、と思っていた時もあったが、今はいろいろ考えさせられる。

肝心の日本から発信の“JDOIT3”は聴かずに先に帰国してしまったのだが、良い成績だったようだ。日本の専門病院の舐めるような(!)治療、しかも糖尿病はもちろん、脂質や高血圧といった複数のリスクの管理が飛躍的に進み、私たちの治療の方向性は間違っていないようだ。但し、糖尿病や透析が増えているというより高齢者人口が増えている日本では、さらに欧米に一步先んじて、「強化療法」の末の、「高齢者医療」を確立していく必要に迫られている。



読んで  
単位を  
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部変更しております。)

**問題** 糖尿病網膜症病期分類と症状の組み合わせで正しいのはどれか、1つ選べ。(答えは3ページにあります。)

- |         |   |        |
|---------|---|--------|
| 1. 線維増殖 | — | 単純網膜症  |
| 2. 黄斑浮腫 | — | 単純網膜症  |
| 3. 硬性白斑 | — | 増殖前網膜症 |
| 4. 点状出血 | — | 増殖網膜症  |
| 5. 網膜剥離 | — | 増殖網膜症  |



## 報告

## 第41回糖尿病連絡会

日時:平成29年7月20日(木)  
場所:公立昭和病院

7月20日木曜日、公立昭和病院2階大講堂において第41回糖尿病連絡会が開催されました。当日は医師・コメディカルを含め34名の参加で盛況に終了することができました。今回は「糖尿病とがん」をテーマに杏林大学医学部第三内科/近藤医院 近藤琢磨先生の司会進行で、教育講演を近藤医院内科 吉田敦行先生に「がん経験者の居場所としての糖尿病外来」として、糖尿病で胃がん診断のついた症例について提示され、その問題点とチーム医療として出来る例を掲げたご講演を頂きました。さらに、特別講演では、福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科 准教授 野見山崇先生から「糖尿病診療最大の敵に挑む～糖尿病とがん～」をテーマに、米国と日本の糖尿病の現状について、「体重減少できなければ血糖コントロールは無意味である。高血糖高インスリンががんのリスクを上げるので、血中インスリンを上昇させない事が大切である。」とお話し頂きました。



野見山先生



た。メトホルミンはがんのリスクを下げ、インスリン注射はがんのリスクを上げる点や肥満や糖尿病とがんの連鎖メカニズムの紹介があり、予防には果物でなく菜食主義を推奨されていました。また、少量チアゾリジン系薬剤ならば、アジア人ではがんを気にせず使用でき認知症予防にも繋がる点や、インクレチン、GLP-1製剤、SGLT2阻害薬のがんを抑制する効果や関係について分かり易くご講演して頂きました。

## 報告

## 第30回武蔵野糖尿病医療連携の会 学術講演会

日時:平成29年7月22日(土)  
場所:ホテル日航立川東京

第30回武蔵野糖尿病医療連携の会は、「糖尿病合併症」をテーマに7月22日(土)ホテル日航立川にて開催されました。

演題1は、「しびれの日常診療～糖尿病性神経障害を中心に～」という演題で、小林内科医院・小林 典雄先生より実際の診療におけるしびれの診断や問題点についてお話し頂きました。演題2は、「内科実地診療における糖尿病腎症重症化予防のエッセンス」という演題で、かたやま内科クリニック・片山 隆司先生より日常生活に潜む糖尿病腎症へのリスク管理や重症化予防の取り組み法についてお話し頂きました。演題3は、「糖尿病と目:15年



小林先生



ぶりに改訂された米国糖尿病学会からの診療指針をふまえて」という演題で、東京都立多摩総合医療センター・大野 明子先生より普段はなかなか伺うことができない眼科領域からの非常に興味深い最新情報をご講演頂き、多くの参加者からご好評を頂きました。計50名の医師・コメディカルの方々にご出席を頂きました。次回は2018年7月頃に開催予定で、現在日程を調整中です。

この研究会はありきたりのテキストブックでは飽き足らない皆様に、実践に即したすぐに役立つ情報をお届けすることを目的としております。次回も多数の医師及びコメディカルの先生のご参加をお待ちしております。



## 第22回日本糖尿病教育・看護学会学術集会

平成29年9月16日(土)～17日(日)

福岡国際会議場/福岡サンパレス

【本法人評議員】  
武蔵村山病院

小柳 貴子 [看護師]

九州福岡で大型台風18号の訪れとともに開催された第22回日本糖尿病教育・看護学会学術集会に参加してきました。

悪天候に関わらず、約2700名の方が参加したとのこと。もちろん、我々が西東京地区の看護師の皆様も多数参加していました。今年度の学会のテーマは、『研究成果から広げる糖尿病療養支援』でした。会長講演では、世界的に糖尿病対策の強化が急がれる中、糖尿病看護においても直感や経験によって得た看護から、根拠に基づいたEvidence based nursing (以下EBN)へ移行している経過について述べられました。

Evidenceを“つくる”こととしての研究、目の前にいる患者さんに最善の看護を実践するためにEvidenceを“探す”こと、そしてEvidenceを“使う”という視点で研究成果を活用することが大切とのこと。

普段の実践の中では、患者さんへの関わりに悩むこと、落ち込むこと、わからないこと、後悔することが度々あります。しかし、それと同時に笑顔が見える良かった関わりもあり、臨床現場の難しさを実感します。そんな様々な経験を次に活かしていくために、『研究』が身近なものになっていく機会となる内容でした。

学会では、研究についてのセッションが数多く設けられており、「臨床における研究の実施と活用」をテーマにしたシンポジウムでは、千葉大学医学附属病院の大倉瑞代氏は、“混沌とした臨床現場で、実践の道標としてベストプラクティスは必要である。ベストプラクティスは、実践と研究の循環の積み上げが重要である。”と述べ、多くのシンポジストが研究者と臨床現場の看護師(実践者)がチームとして協働していくことを推奨していました。『研究』というと、苦手意識を持つ方もいますが、今回の学会で得た新しい知識・Evidenceを早速現場に活用できるか試してみよう和前向きな気持ちになれたのではないかと感じました。

また、学会会場にはスタンプラリーや休憩所に趣向を凝らしたスイーツが用意されており、参加者へのおもてなしの心遣いが感じられる学会でした。



読んで  
単位を  
獲得しよう

答え 5 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

単純網膜症・・・毛細血管瘤、網膜出血(点状・斑状、火炎状)、硬性白斑、少数の軟性白斑  
 増殖前網膜症・・・多発する軟性白斑、IRMA(網膜内細小血管異常)、静脈異常、経口眼底造影で無血管野  
 増殖網膜症・・・新生血管、硝子体出血、線維性増殖膜形成、牽引性網膜剥離  
 黄斑症はこれらの病期とは別に発生する黄斑症の一つで網膜症が進行すると頻度が上がるが単純網膜症でも起こりうる。

1、5は増殖網膜症の特徴、2は病期とは関係なし、3、4は単純網膜症の特徴で、正解は5となる。

## 研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
  共催・後援事業
  その他

 第10回 ブルーライトアップ - スカイトワー西東京 -

 申込必要

開催日：平成29年11月11日（土）15：45～18：00（開場：15：15）  
 場所：スカイトワー西東京 タワープラザ地下1階会議室 ※雨天決行  
 （西武線「花小金井駅」北口下車 徒歩20分 または西武線「田無駅」北口よりバス有）  
 申込：FAX：042-322-7478（11/4締切）  
 問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

 参加費  
無料

 詳細資料の  
同封あり


14：45～ 西東京糖尿病療養指導士による「糖尿病クイズラリー」にも参加可能です。

 臨床糖尿病支援ネットワーク 第62回例会

 申込不要

テーマ：『その血糖値どこまで信用できる！？～血糖測定の実状と問題点～』  
 開催日：平成29年11月18日（土）15：30～18：50  
 場所：国分寺市立いずみホール（JR「西国分寺駅」下車 徒歩2分）  
 参加費：本法人会員 無料 / 一般 1,500円  
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位  
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中  
 ☆日糖協療養指導医取得のための講習会

 参加費  
無料

 詳細資料の  
同封あり

 TAMA糖尿病チーム医療 1UP Seminar

 申込必要

テーマ：『糖尿病災害対策』  
 開催日：平成29年11月21日（火）19：25～21：05  
 場所：三鷹産業プラザ 7階 705会議室（JR中央線「三鷹駅」南口下車 徒歩7分）  
 申込：FAX：042-367-2958（11/14締切）  
 問合せ：サノフィ(株)（担当：日下） TEL：080-5886-5829  
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

 参加費  
無料

 詳細資料の  
同封あり

 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第12回研修会

 申込必要

演題：『CSII・SAP導入経験を語る』  
 開催日：平成29年11月28日（火）19：20～21：00  
 場所：立川相互病院横 薬局棟2階・講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）  
 申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（11/21締切）  
 問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468  
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

 参加費  
無料

 詳細資料の  
同封あり

 第18回 西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会

 申込不要

テーマ：『高齢者低血糖』  
 開催日：平成29年12月9日（土）15：00～17：55  
 場所：立川相互病院 2階講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）  
 参加費：医師 1,000円 / 医師以外 無料  
 問合せ：サノフィ(株)（担当：菅谷） TEL：080-6627-7850  
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位  
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中  
 ☆日本医師会生涯教育制度（カリキュラムコード：7、73、76、82）：2単位4カリキュラム申請中

 詳細資料の  
同封あり

## 発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局  
 〒185-0012  
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802  
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478  
 https://www.cad-net.jp/  
 Email:w\_tokyo\_dm\_net@crest.ocn.ne.jp

## 編集後記



今年の世界糖尿病デー(11月14日)のテーマは”Women and diabetes - our right to a healthy future”です。世界的には女性10人に1人が糖尿病で、出生児7人に1人の母親が妊娠糖尿病だそうです。出産する女性を糖尿病から守ることが人類の未来につながるというIDFの考えですが、もちろん女性に限らず、今年もブルーライトアップや各イベントで老若男女に啓発していきましょう。（広報委員 杉山 徹）